

印刷物仕様書

印刷物名	地域と学校の連携・協働のために		数量	(枚組) 3,000	■部 □組 □冊 □セット
印刷区分	<input checked="" type="checkbox"/> オフセット <input type="checkbox"/> フォーム <input type="checkbox"/> ダイレクト <input type="checkbox"/> 賞状 <input type="checkbox"/> 地図 <input type="checkbox"/> その他 ()				
用紙規格	<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B 4判 (<input checked="" type="checkbox"/> 仕上がり) <input type="checkbox"/> インチ×インチ <input type="checkbox"/> mm×mm				
印刷面	【表紙】 kg (紙の厚さ) <input type="checkbox"/> 上質紙 <input type="checkbox"/> コート紙 <input type="checkbox"/> アート紙 <input type="checkbox"/> レザック <input type="checkbox"/> 色上質紙 (厚口・特厚口) <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 片面刷/ <input type="checkbox"/> 両面刷 (色)				
印刷色	【本文】 16頁 76.5kg (紙の厚さ) <input type="checkbox"/> 上質紙 <input checked="" type="checkbox"/> コート紙 <input type="checkbox"/> アート紙 <input type="checkbox"/> OCR用紙 <input type="checkbox"/> ノーカーボン紙 (青・黒) (N) <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 減感 (枚目) <input type="checkbox"/> 裏カーボン (枚目) <input type="checkbox"/> 片面刷 (<input type="checkbox"/> モノクロ (頁) <input type="checkbox"/> 2色 (頁) <input type="checkbox"/> 3色 (頁) <input type="checkbox"/> 4色 (頁)) <input checked="" type="checkbox"/> 両面刷 (<input type="checkbox"/> モノクロ (頁) <input type="checkbox"/> 2色 (頁) <input type="checkbox"/> 3色 (頁) <input checked="" type="checkbox"/> 4色 (16頁))				
製本	<input type="checkbox"/> 無線 (あじろ) とじ <input checked="" type="checkbox"/> 針金とじ (<input checked="" type="checkbox"/> 中とじ <input type="checkbox"/> 平とじ) (カ所) <input type="checkbox"/> 上製本 <input type="checkbox"/> 見返し <input type="checkbox"/> 背文字 <input type="checkbox"/> バラ (枚帯掛) <input type="checkbox"/> 穴 (カ所) <input type="checkbox"/> ミシン (本) <input type="checkbox"/> セット仕上 (枚帯掛) <input type="checkbox"/> 天のり (組・枚 1冊) <input type="checkbox"/> 折り (<input type="checkbox"/> 二つ折 <input type="checkbox"/> 三つ折 <input type="checkbox"/> 巻三つ折 <input type="checkbox"/> 巻四つ折 <input type="checkbox"/> 経本折 <input type="checkbox"/> 観音折) <input type="checkbox"/> その他 ()				
グリーン購入	<input checked="" type="checkbox"/> 適合 <input type="checkbox"/> 不適合 <input type="checkbox"/> 対象外				
【判断基準】 (1)総合評価値 80 以上の印刷用紙を使用すること。(冊子形状のものについては表紙を除く。) (2)印刷物の用途・目的に支障のない範囲で、可能な限りAランクの資材を使用すること。 (3)報告書、ポスター、チラシ、パンフレット等の印刷物には、リサイクル適性を表示すること。 (4)オフセット印刷については、インキの種類ごとに規定された率以上植物由来の油を含有し、かつ芳香族成分が 1%未満の溶剤のみを用いたインキが使用されていること。					
写真	<input checked="" type="checkbox"/> カラー 最大88点 <input type="checkbox"/> モノクロ 点 【内訳】 <input checked="" type="checkbox"/> 支給 [著作権: <input checked="" type="checkbox"/> 無 (88点) <input type="checkbox"/> 有 (点)] <input type="checkbox"/> 撮影又はレンタル 点				
イラスト	<input checked="" type="checkbox"/> カラー 50点 <input type="checkbox"/> モノクロ 点 【内訳】 <input type="checkbox"/> 支給 [著作権: <input type="checkbox"/> 無 (点) <input type="checkbox"/> 有 (点)] <input checked="" type="checkbox"/> 書起し又はレンタル 50点				
支給原稿	【表紙】 <input type="checkbox"/> 普通紙 <input type="checkbox"/> 電子データ (使用ソフト:) 【本文】 <input checked="" type="checkbox"/> 普通紙 <input checked="" type="checkbox"/> 電子データ (使用ソフト: Word) 【イラスト】 <input type="checkbox"/> 普通紙 <input type="checkbox"/> 電子データ (使用ソフト:) 【写真】 <input type="checkbox"/> ネガ <input checked="" type="checkbox"/> プリント <input checked="" type="checkbox"/> 電子データ (使用ソフト: jpg)				
原稿引渡	<input type="checkbox"/> 受注業者決定時 <input checked="" type="checkbox"/> 令和8年2月20日 (予定)				
校正責任者	所属名 福島県教育庁社会教育課 担当者 新田 内線 (5106) 外線 (024-521-7799)			校正回数	5回
納入期限	令和8年3月23日 (月)	データ納品	<input checked="" type="checkbox"/> 要 (形式: PDF)		<input type="checkbox"/> 不要
納入場所	福島県教育庁社会教育課 【その他納品先】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (66カ所) <input type="checkbox"/> 無				
特記事項	デザイン案3案提出。デザイン案を基に福島県教育庁社会教育課内にて、対面で打合せを実施後、編集に着手すること。打合せ、校正の際は、 担当者が来庁 すること。社会教育課で検収した後、その他納品先 66カ所に納品とする。その他納品先 66カ所の内訳は別紙のとおり。(県教育事務所 7カ所、市町村教育委員会 59カ所)				

- (注) 1 必要な仕様は、別紙に具体的に書き入れること。
 2 受注業者は、作業前に校正責任者と打合せを行うこと。
 3 リサイクル適性の表示が必要な印刷物(上記グリーン購入【判断基準】(3)を参照)については、受注業者は速やかに資材確認票を出納局入札用度課に提出すること。

配布計画（郵送）

No.	域内名	教育事務所 市町村名	住所	発送部数 計
1	県北	福島市	福島市五老内町3-1	85
2	県北	川俣町	伊達郡川俣町字五百田30番地	15
3	県北	桑折町	伊達郡桑折町字東大隅18	15
4	県北	伊達市	伊達市梁川町青葉町1番地	30
5	県北	国見町	伊達郡国見町大字藤田字一丁田二1番7	15
6	県北	二本松市	二本松市金色403番1	35
7	県北	大玉村	安達郡大玉村玉井字西庵183	15
8	県北	本宮市	本宮市本宮字万世212	20
9	県中	郡山市	郡山市朝日一丁目23番7号	95
10	県中	須賀川市	須賀川市八幡町135	40
11	県中	鏡石町	岩瀬郡鏡石町旭町159	15
12	県中	天栄村	岩瀬郡天栄村大字下松本字原畠66番地	15
13	県中	石川町	石川郡石川町字長久保185番地の4	15
14	県中	玉川村	石川郡玉川村大字小高中曇9	15
15	県中	平田村	石川郡平田村大字永田字切田116番地	15
16	県中	浅川町	石川郡浅川町大字浅川字背戸谷地144-6	15
17	県中	古殿町	石川郡古殿町大字松川字新桑原31	15
18	県中	田村市	田村市船引町船引字畠添76番地2	25
19	県中	三春町	田村郡三春町字大町1番地の2	20
20	県中	小野町	田村郡小野町大字小野新町字中通2	15
21	県南	白河市	白河市八幡小路7-1	35
22	県南	西郷村	西白河郡西郷村大字熊倉字折口原76-1	20
23	県南	中島村	西白河郡中島村大字滑津字ニツ山28-10	15
24	県南	矢吹町	西白河郡矢吹町一本木101	15
25	県南	泉崎村	西白河郡泉崎村大字泉崎字八丸145	15
26	県南	棚倉町	東白川郡棚倉町大字棚倉字中居野33	15
27	県南	塙町	東白川郡塙町大字塙字桜木町80	15
28	県南	矢祭町	東白川郡矢祭町大字東館字石田25	15
29	県南	鮫川村	東白川郡鮫川村大字赤坂中野字巡ヶ作128	15
30	会津	会津若松市	会津若松市栄町5-17	40
31	会津	磐梯町	磐梯町磐梯字仁渡1018	15
32	会津	猪苗代町	猪苗代町字城南100	20
33	会津	喜多方市	喜多方市字御清水東7244-2	35
34	会津	北塩原村	北塩原村大塩字下六郎屋敷2134	15
35	会津	西会津町	西会津町野沢字原町乙2234-1	15
36	会津	会津坂下町	会津坂下町字市中三番甲3667-1	15
37	会津	湯川村	湯川村清水田字長瀬18	15
38	会津	柳津町	柳津町柳津字下平乙234	15
39	会津	会津美里町	会津美里町鶴野辺字広町740	15
40	会津	三島町	三島町宮下字宮下350	15
41	会津	金山町	金山町川口字谷地393	15
42	会津	昭和村	昭和村下中津川字住吉415	15
43	南会津	南会津町	南会津町田島字後原甲3531	20
44	南会津	下郷町	下郷町塩生字大石1000	15
45	南会津	桧枝岐村	桧枝岐村字下ノ原887-2	15
46	南会津	只見町	只見町只見字町下2591-30	15
47	相双	新地町	新地町谷地小屋字樋掛田30	15
48	相双	相馬市	相馬市中村字北町63-3	20
49	相双	南相馬市	南相馬市原町区本町二丁目27	30
50	相双	飯館村	飯館村伊丹沢字伊丹沢580-1	10
51	相双	浪江町	浪江町幾世字六反田7-2	15
52	相双	葛尾村	葛尾村落合字落合16	15
53	相双	双葉町	双葉町大字長塚字町西73-4	15
54	相双	大熊町	大熊町大河原字南平1717	10
55	相双	富岡町	富岡町本岡字王塚622-1	15
56	相双	川内村	川内村上川内字小山平15	15
57	相双	檜葉町	檜葉町下塙字麦入31	15
58	相双	広野町	広野町下北迫字苗代替35	15
59	いわき	いわき市	いわき市平字堂根町4-8	120
		合計		1310

60	県北教育事務所	福島市杉妻町2番16号	30	
61	県中教育事務所	郡山市麓山一丁目1番1号	30	
62	県南教育事務所	白河市昭和町269	30	
63	会津教育事務所	会津若松市追手町7番5号	30	
64	南会津教育事務所	南会津郡南会津町田島字根小屋甲4277-1	30	
65	相双教育事務所	南相馬市原町区錦町一丁目30	30	
66	いわき教育事務所	いわき市平字梅本15	30	
	合計		210	②

67	教育庁社会教育課	福島市杉妻町2番16号	1480	③
----	----------	-------------	------	---

総計	(1)+(2)+(3)	3000
----	-------------	------

ふくしまの
未来を創る

地域と 学校の

連携・協働のために 地域と共にある学校をめざして



2025.3 福島県教育委員会



① 地域と学校が連携・協働する必要性

地域における教育力の低下や家庭の孤立化、学校を取り巻く問題の複雑化・困難化等の課題に対して社会総がかりで対応することが求められています。そのためには、地域と学校がパートナーとして連携・協働するための組織的・継続的な取組が必要不可欠です。

また、新学習指導要領が目指す「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、学校は地域との連携・協働を一層進めていくことが重要であり、地域においても、より多くの地域住民等が子どもたちの成長を支える活動に参画するための基盤を整備することが求められています。こうした社会的背景を踏まえ、平成29年3月に社会教育法が改正され、地域学校協働活動の全国的な

推進に向けた規定の整備が行われました。

本県においては、東日本大震災及び原子力発電所事故による避難指示で、多くの方々がふるさとを離れなければならなくなっていましたが、避難指示が解除された地域では、学校が復興の拠点として、地域や住民を勇気づけ、コミュニティの再建を担うなど、学校は、地域コミュニティの核であると改めて認識されました。

特に本県にとって、子どもたちが地域や復興の課題解決に参画する学びは、郷土への愛着や誇りを培い、社会に対する当事者意識を育むとともに、主体的な学びにより体験活動が更に充実することで、自己肯定感を醸成し、夢や志を育みながら激しく変化する社会をたくましく生き抜く力が身に付くものと考えます。



「学びの変革推進プラン」



福島県教育委員会は、第7次福島県総合教育計画を令和3年12月に策定し、今後の教育施策の方針をまとめた「学びの変革推進プラン」を年次計画として作成しました。



「学びの変革推進プラン」の主要施策の一つに「福島で学び、福島に誇りを持つことができる『福島を生きる』教育を推進する」を掲げ、福島県で学んだ子どもたちが福島県に誇りを持つことができるよう、学校と地域の連携・協働や地域をフィールドとした探究的な学びの推進等により、「福島を生きる」教育を目指しています。

② 「社会に開かれた教育課程の実現」に向けて

社会に開かれた教育課程の理念

中教審答申 2018年12月

1 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を通してその目標を社会と共有していくこと。

2 これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。

3 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったり、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。



教育課程を介して 目標を学校と社会が共有

教育課程を介して地域と学校が目標を共有する方法としては、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度を導入した学校）や学校評議員制度等を活用したり、PTA総会や地区の集まり等で話し合ったりすることが考えられます。目標やビジョンを地域と学校が共有することにより、地域と学校が一体となつた「地域と共にある学校」へと進めていくことができます。



地域学校協働活動の推進

「地域学校協働活動」とは、地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動です。

より多くの、より幅広い層の地域住民、団体等が参画し、目標を共有し、「緩やかなネットワーク」を形成することが大切です。

地域学校協働活動は、社会教育法第5条第2項により、学校と協働して行う以下の活動と規定されています。

- 学校の授業終了後又は休業日において学校、社会教育施設等で行う学習、その他の活動
- ボランティア活動、社会奉仕体験活動、自然体験活動、その他の体験活動
- 社会教育における学習の機会を利用して行った学習の成果を活用して学校、社会教育施設等で行う教育活動、その他の活動

学びによるまちづくり・ 地域課題解決型学習・郷土学習

- 地域資源を理解し、その魅力を伝えたり、地域活性化のための方策を考え、実行する学習活動
- 「ふるさと」について地域住民から学び、自ら地域について調べたり発表したりする学習活動
- 地域の産業や商店街の職場体験学習、郷土の伝統・文化芸能学習 など

放課後子供教室

- 地域住民の参画を得て、放課後等に全ての児童を対象として行う、学習や体験・交流といった多様な活動

地域未来塾

- 全ての児童生徒を対象に、教員OBや大学生などの地域住民の協力によって行う学習支援

家庭教育 支援活動

- 寄り添いが必要な子供、不登校傾向のある子供等への対応について、保護者が学び合う機会づくりなど

学校に対する 多様な協力活動

- 登下校の見守り、花壇や通学路等の学校周辺環境の整備、子供たちへの本の読み聞かせ、授業の補助や部活動の支援、企業等による出前授業等の教育プログラムの提供 など

地域の行事、イベント、お祭り、 ボランティア活動等への参画

- 地域イベントにおけるボランティア体験学習、伝統行事やお祭りでの伝統文化・芸能の発表や楽器の演奏、地域の防災訓練への参画 など



地域と学校が連携・協働することでの効果

児童生徒にとって期待される効果

- ①学力向上の基盤をつくります
多くの大人の専門性や地域の力を生かした教育活動が実施されることにより、学びが充実するとともに学習意欲が高まります。
- ②「生きる力」の育成につながります
地域の方々との関わりにより、自己肯定感や思いやりの心が育まれるとともに、地域への理解・関心が深まります。
- ③社会性が育まれます
地域の方々との関わりから、地域への愛着が芽生え、地域の担い手としての自覚がうまれます。

地域にとって期待される効果

- ①地域の教育力が向上します
地域の子どもたちを地域全体で育てていこうという意識が高まり、地域の教育力向上につながっていきます。
- ②地域コミュニティが活性化します
学校での教育活動を通じて、児童生徒と地域住民及び住民同士の交流の機会が創出され、学校を核とした地域コミュニティが活性化します。
- ③地域住民の生きがいづくりや自己実現につながります
地域住民がこれまでの学びで身に付けた知識や技術、経験を生かす機会が得られることで、生きがいづくりや自己実現につながります。

学校・教職員にとって期待される効果

- ①授業内容が充実します
地域の方々の多様な視点や地域資源（人・もの・こと）を生かし、充実した教育活動が展開できます。
- ②地域との信頼関係が構築されます
日頃から地域と学校が連携して様々な教育活動を推進していくことで、地域と学校の良好な信頼関係が構築されます。
- ③地域への理解が深まります
地域の人的・物的教育資源を知るとともに、地域の方々が学校の応援団であることを実感できます。
- ④多忙化解消につながります
地域の方々に教員以外の者が担うことができることに協力や支援をいたすことにより、教員の負担軽減が図れます。



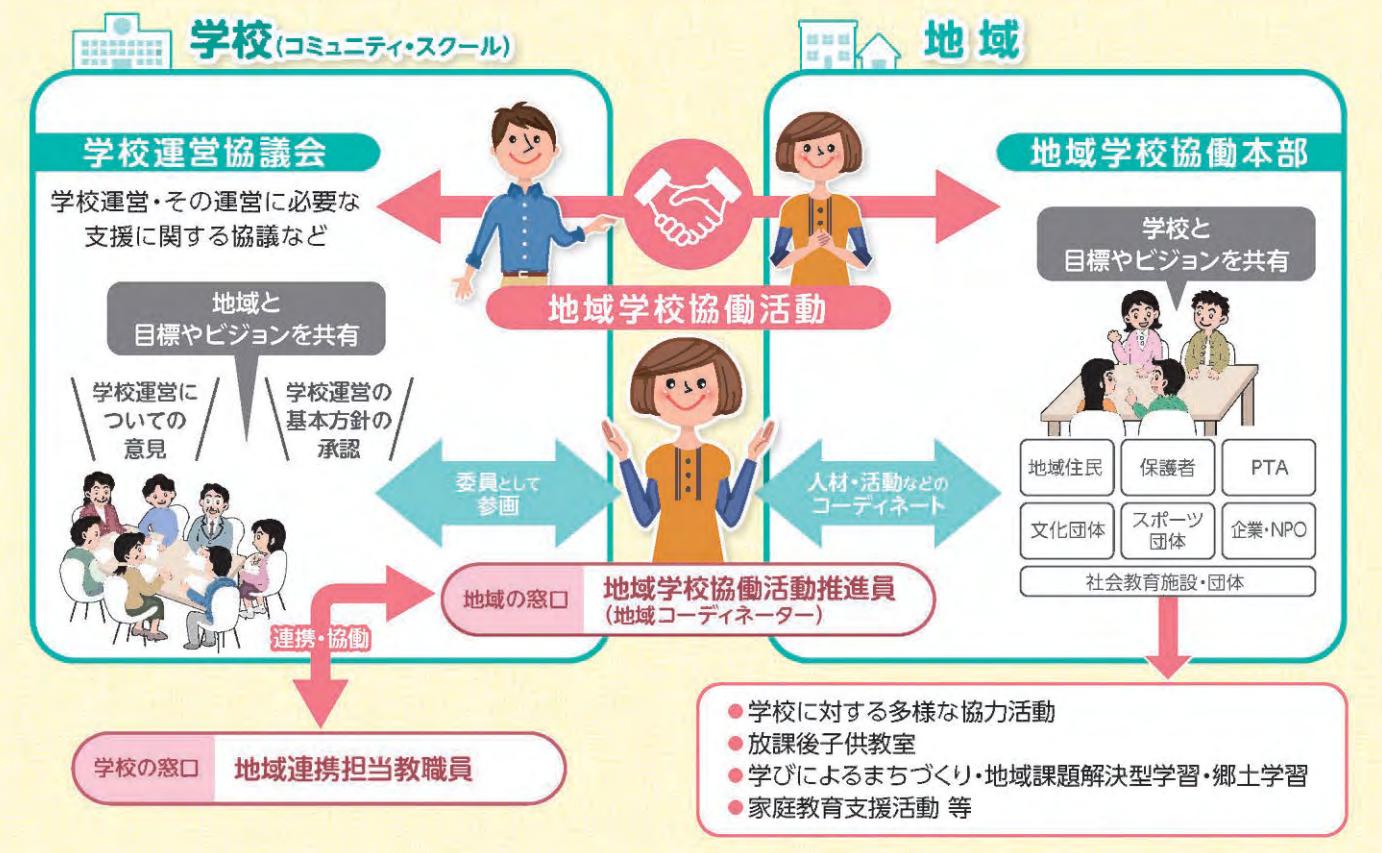
コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の 一体的な推進に向けて

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に進めるためには、まず関係者で目標やビジョンを共有することが重要で、学校運営協議会の協議や熟議[※]等がその役割を果たします。その結果を踏まえ、幅広い地域住民等が参画することによって、教育活動や地域学校協働活動の充実や活性化につながります。

学校運営協議会と地域学校協働本部は、それぞれがもつ役割を十分に機能させ、一体的に推進することで、相乗効果を発揮し、学校運営の改善と地域づくりに資する活動が一層進んでいくことが期待されます。

※「熟議」とは…多くの当事者が「熟慮」と「議論」によって問題の解決を目指す対話のこと。様々な立場の関係者が一つのテーブルにつくことで、新しいアイディアや考え方方が生まれます。

福島県内では、令和6年5月現在、県内300校園（幼稚園20園、小学校176校、中学校90校、義務教育学校7校、高等学校7校）においてコミュニティ・スクールが導入されており、県立学校も含め、コミュニティ・スクールの取組が広がってきています。



「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」の一体的推進の効果

校長や教職員の異動があっても、学校運営協議会によって、地域との組織的な連携・協働体制がそのまま継続できる「持続可能な仕組み」となる。

組織的・継続的な体制の構築

学校運営協議会や熟議等を通して、子どもたちがどのような課題を抱えているのか、地域でどのような子どもを育していくのか、何を実現していくのかという「目標・ビジョン」を共有できる。

当事者意識・役割分担

校長が作成する学校運営の「基本方針の承認」を通して、学校や地域、子どもたちが抱える課題に対して関係者がみな当事者意識を持ち、「役割分担を持って連携・協働による取組」ができる。

目標・ビジョンを共有した「協働活動」

令和6年度 地域学校協働本部事業アンケート結果より (福島県内の抽出市町村)

▶児童・生徒アンケート

- 地域の方からいろいろなことを学ぶことがある。 96%
- 地域の方々といっしょに活動できるのがうれしい。 97%

▶教職員アンケート

- 地域人材を活用することで、様々な体験の機会が増え、教育活動の充実につながっている。 98%
- 子どもたちは、地域の方々との交流を楽しんでいる。 97%

▶地域連携担当教職員アンケート

- 学校と地域の連携が深まり、社会に開かれた教育課程の実現につながっている。 95%
- 地域連携担当教職員としての役割を理解し、やりがいを感じている。 88%

▶地域学校協働活動推進員(コーディネーター)アンケート

- 活動を通して、自分の学ぶ機会が増えた。 92%
- 地域の人材の協力体制が深まり、学校を核とした地域づくりにつながっていると感じる。 84%

▶協働活動ボランティアアンケート

- ボランティアとして活動に参加することが楽しい。 99%
- ボランティア同士のつながりが強まり、地域の活性化につながっている。 85%

(各質問項目において「とてもあてはまる」「まあまああてはまる」と回答した割合)

地域住民等の回答から地域学校協働活動が「学校を核とした地域づくり」につながっていることが分かります。また、教育活動において大変有意義なものになっていることも、子どもたちや先生方の回答に表れており、まさに“双赢”の活動となっています。

県教委の補助事業

「地域学校協働本部事業」が 活用できます

令和6年度は42の市町村・団体が
県教育委員会の補助事業を活用し、
「地域学校協働活動」
「家庭教育支援活動」
を実施しました。



- | | | | |
|-------|--------------|------|-------|
| 川俣町 | 楢葉町 | 小野町 | 会津坂下町 |
| 田村市 | 広野町 | 白河市 | 湯川村 |
| 三春町 | 聴覚支援学校平校保護者会 | 西郷村 | 柳津町 |
| 会津若松市 | 国見町 | 矢吹町 | 会津美里町 |
| 相馬市 | 二本松市 | 棚倉町 | 三島町 |
| 南相馬市 | 大玉村 | 塙町 | 金山町 |
| 浪江町 | 本宮市 | 矢祭町 | 南会津町 |
| 葛尾村 | 須賀川市 | 鮫川村 | 下郷町 |
| 双葉町 | 鏡石町 | 猪苗代町 | 只見町 |
| 富岡町 | 天栄村 | 喜多方市 | |
| 川内村 | 石川町 | 西会津町 | |

- (順不同)

令和6年度 実施市町村・団体



川俣町



「川俣町地域学校協働活動事業」の取組

内容

連携・協働活動:川俣シャモ・蚕・川俣シルク・アンスリウム・歴史など地域について学ぶ活動や、地域のイベントに触れることができる「ケーナ教室」を実施している。
学校支援活動:読み聞かせ・野菜作り・ミシン学習のサポートや学校環境の整備など、地域人材のもつ技術等を生かした活動を行っている。
放課後の学習活動:放課後の子どもの居場所として、「たのしい教室」を町内5か所で実施している。また、小学生を対象にした放課後の学習支援として「土曜学習」、中学生を対象にした長期休業学習プランとして「サマースクール」を実施している。

ポイント

- 学校からの要望等について推進員が地域の方々に依頼し、活動をコーディネートしている。
- 年に3回「地域学校協働だより」を発行し、地域に活動の様子を発信している。
- 町内の小中学校の児童・生徒、教職員、地域ボランティアにアンケートをとり、事業の成果・課題を把握し、今後の改善に生かしている。

成果

地域学校協働活動実施回数

連携・協働活動:19回(11回)
 学校支援活動:53回(33回)
 放課後の学習活動:123回(97回)

ボランティアのべ人数:1283人(888人)
 (令和6年12月末現在)()内は昨年度の数値

小学生	中学生
①地域の人から学ぶことがある	73% (74%)
②学校に地域の人がある	91% (94%)
③これから地域の人といっしょに活動したい	88% (91%)
④将来、自分が住む地域のために活動したい	82% (88%)

▲地域学校協働活動について
 「十分であります」ある程度ではあると回答した小学生と中学生の割合
 (令和6年12月末実施) ()内は昨年度の数値

三春町



「まほらっこ教室(放課後子ども教室)運営事業」の成果と課題

内容

	三春教室	岩江教室	御木沢教室	中妻教室	中郷教室	沢石教室
実施場所	三春小学校 西校舎2階	岩江小学校 体育館	御木沢小学校 音楽室	中妻地区 公民館	中郷地区 交流館	旧沢石 地区福祉館
開設日	月～金	月～金	月～木	月～金	月～金	月～金
開設時間	放課後～ 16時	放課後～ 15時50分	放課後～ 15時45分	放課後～15時50分 延長教室18時まで	放課後～15時45分 延長教室18時まで	放課後～15時50分 延長教室18時まで
登録児童数	49名	33名	16名	45名	36名	35名
開設予定期数	172日 (通常のみ)	172日 (通常のみ)	130日 (通常のみ)	199日(通常) 199日(延長)	158日(通常) 199日(延長)	126日(通常) 199日(延長)

※指導員等:33名、コーディネーター:2名登録

ポイント

児童クラブのない地区(中妻・中郷・沢石)で、延長教室・長期休業中教室を実施している。
延長教室:通常教室終了後から18時まで…登録児童数 94名
長期休業中教室:8時30分から18時まで…登録児童数 99名

成果

コーディネーターを中心に、地域ボランティア等が積極的に事業に取り組んでおり、地域の実情に合わせながら、安全・安心な放課後の居場所を確保し活動を実施できた。

避難訓練(地震・火災)の実施:参加児童数 195名
夏休みレクリエーションの実施:参加児童数 81名
 (リアル人生ゲーム、ペン立て作り、スライム作り)

児童クラブとの合同活動の実施:

三春教室:外遊び等で交流(随時)
 岩江教室:体育館にて交流…参加児童数 50名
 御木沢教室:工作教室で交流…参加児童数 17名

田村市



田村市地域学校協働本部事業の成果と課題

内容

地域学校協働事業:【活動対象】中学校6校 小学校7校 幼稚園3園 こども園2園 【主な支援内容】学習支援(ミシン、校外学習など)、部活動支援、読書活動支援(読み聞かせなど)、登下校時の見守り活動
放課後子ども教室:【活動対象】小学校1年生～4年生(学校によっては全学年のところもある) 【主な支援内容】スクールバスまでの時間に実施。基本的には子どもたちの自主活動。その他に季節行事等もある。

ポイント

- 運営委員会(評議委員会を兼ねる)を年3回開催し、活動の在り方について検討している。
- 地域教育協議会の開催、啓発、広報活動、ボランティア募集活動の実施。
- 地域の方やボランティアの方の協力により、総合的な学習の時間や放課後の安全・安心が確保され、充実した時間になっている。

成果

地域学校協働事業:コミュニティ・スクールとの一体的な取り組みを推進しており、本年度「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」の文部科学大臣表彰受賞。毎月1回、地域学校協働コーディネーター情報交換会(放課後子ども教室)参加児童へのアンケート結果の実施や、常葉地区学校運営協議会での継続的な熟議などにより、多様な支援活動ができており、子どもたちと地域の方とのつながりが広がっている。

▲地域学校協働活動について
 「十分であります」ある程度ではあると回答した小学生と中学生の割合
 (令和6年12月末実施) ()内は昨年度の数値

相馬市



地域の子どもは地域で育てる(放課後子ども教室)

内容

- 市内9小学校全校で実施。各教室で地域の実態に合った内容を展開している。
- 子どもたちの自主性を尊重し、自由に遊び遊べることを中心活動している。(宿題をしてから遊ぶというように、スケジュールを決めている教室もある)
- 季節の行事、夏休み教室、親子参加行事、お楽しみ会など楽しいイベントを企画し、各教室が特色ある活動を行っている。
- 東日本大震災の教訓を活かし、子どもたちの災害時の安全を確保するために、全ての教室で地震などを想定した避難訓練を実施している。

ポイント

- 各教室ごとに、地域の実情にあわせた形で実施している。
- 各教室代表者による会議を学期ごとに開催し、情報共有や課題解決に努めている。
- 各教室でおこなったイベントなどを、広報紙や市HPに掲載して活動をPRしている。

成果

アンケートを登録児童の保護者に実施。
 登録児童272人中199人が回答(回収率約73%)
 子どもたちが放課後子ども教室のどのような活動を楽しみにしているか調査したこと、「友達との遊び」が最も多かった。保護者が活動に対し期待することは、「友達との交流」、「体力向上」、「地域の大人との触れ合い」となっており、97%の保護者が期待どおりの活動ができるていると思うと回答があった。これらのことから、本事業は子どもの豊かな心の育成へ貢献できていると考える。



浪江町



みんなで創る未来の浪江～地域とともに学び、つながる力～

内容

地域・企業を結び子ども達が興味を示す事業を企画・展開

- 放課後子どもチャレンジ(習字、英語、けん玉、バスケ、サッカー等)
- 子ども週末チャレンジ(畑体験、スキ一体験など)
- 長期休暇イベント(施設見学)
- 地域交流活動(講師派遣、授業サポートなど)

ポイント

放課後の活動:子どもたちは放課後に自分の興味ある活動を選んで、ダンスや習字などの活動を体験しました。

地域・学校との連携:地域や学校のニーズを把握し、情報を共有して連携しました。

週末の自然体験・宿泊体験:週末に自然体験や宿泊体験を行い、子どもたちは自然とのふれあいを楽しみました。

地域学習の実施:町内の施設や専門家を活用し、地域の歴史や文化を学びました。

成果

今年度は、地域の方々との協力により124の事業を実施し、延べ1,050名が参加するなど、地域学校協働活動の取り組みが広がった。多様な学びの機会を提供することで、児童生徒の主体性や地域への理解が深まり、地域の人々との交流も活発化した。また、外部講師やボランティアの協力を得ることで、専門的な学びの機会も増えた。一方で、人材不足も明確になっている。

南相馬市



「南相馬市地域学校協働事業」の成果と課題

内容

上真野小学校・太田小学校・大薙小学校「田んぼ体験・さつまいも収穫等の農業体験活動」:地域住民等の協力により、全校児童が年間を通して、「田植え体験」、「稻刈り体験」などの米づくりや、「さつまいもの苗植えから収穫」を行い、農業体験活動によって地域住民との世代間交流を実践した。高平小学校「学習支援活動・体験活動」:地域の退職教員が中心になり、「夏休み・冬休みなども教室」の学習支援活動や、「習字・書初め教室」、「木工教室」、「料理教室」などの体験活動を実施した。小高小学校・石神第一小学校「放課後子ども教室」:地域の方々の参加と協力のもと、参加登録児童が文化・スポーツ、農業体験など、地域の資源を活用して年間を通して各種事業を実施し、子どもたちの健全育成、居場所づくりを推進した。原町第一小学校・原町第二小学校・原町第三小学校「学校支援活動」:地域住民や企業等の参画のもと、「昔遊び」「家庭科授業」「民謡教室」「ふるさと教育」「キャリア教育」などそれぞれの学校の教育課程に地域人材の活用を図りながら、子どもたちと交流を行った。

ポイント

- 各学校を管轄する地区生涯学習センターが核となり、「地域学校協働本部」を設置。
- 地域と学校をつなぐ地域コーディネーターを中心としたボランティアの参画により、郷土学習や、体験活動、学習支援、学校支援など、地域に根ざした活動を実施。

成果

地域が学校・子どもたちを応援・支援する一方的な活動から、双方の「連携・協働」型の活動へと転換を図ることができた。

地域コーディネーターを中心に、地区生涯学習センターが、地域学校協働本部機能を果たしながら、学校や地域住民との緊密な連携により、地域の特性を活かした事業を展開することができた。

葛尾村



葛尾キッズクラブ(放課後子ども教室)

内容

対象:葛尾小学校児童
 実施日:平日の放課後～17:00、夏休み・冬休み(年間213日)
 実施場所:葛尾小学校(生活科室、体育館、多目的室)
 運営:小学校、教育委員会、指導員とのミーティングを適宜実施しながら運営している。

活動内容:宿題仕上げ、英語活動、工作、運動、ヨガ教室、移動学習、体験学習 等

ポイント

- 少人数の特色を活かし、家庭のような温かい雰囲気の中で安心して過ごすことのできる環境づくりに努めている。
- ②村の移住定住事業で地域に関わるアーティストや学生など、異年齢・異職種の方々との交流を実施している。

成果

①年度当初は、参加していない児童もいたが、現在は全員参加している。
 ②アーティストやヨガなどの外部講師や地域住民・学生ボランティアを活用し、体験活動の充実を図るとともに、児童同士では培われない異世代との交流を深めることができた。

	R6.4月	R7.1月
参加児童数	14人	16人



双葉町



「地域学校協働活動事業」の成果と課題

内容

双葉町の伝統芸能にふれる: 標葉せんだん太鼓保存会にご指導いただき、10月開催の「梅檀祭」(学習発表会、文化祭)における児童生徒の発表。美化活動等で地域とかかわる: 仮設校舎周辺の神社や河川敷の清掃活動、花いっぱい運動(一社)「ふたばプロジェクト」による花植え。放課後学習支援: 「ふたばっ子学習会」において学習の習慣化を図る。外部の学習支援団体の協力を得ながら、個に応じた学習プリントによる指導と主体的な学びによる学力向上。町の現状を知る: 「双葉町の産業を知り、未来の双葉町を考える」をテーマに、児童生徒は町内で様々な体験を行うとともに、企業や町内で働く方々にインタビューを行ったり、農業を営む方と一緒にプロッコリーの収穫を行ったりした探究学習の取組。

ポイント

●本事業を進めるにあたり、ふるさと双葉町と現在学校が所在するいわき市も含め包括的に「地域」と認識したうえで、地域学校協働活動を通して、「地域愛」を醸成する機会とする。●実際に双葉町を訪れ、体験活動を行うことにより、色々な視点から復興状況を学ぶ。

成果

●子どもたちは、地域との様々な関わりにより、学習の幅が広がり、感じたことや疑問に思ったことをもとに、探究的に学ぼうとする姿勢が見られるようになった。●地域の人たちと繋がりをもつことで、地域の一員としての役割について考えるきっかけになった。●役場職員の講話を聞いたり、実際に双葉町で体験したりしたこと、町の復興状況を知り、町の将来について展望する機会を得た。●放課後学習会の支援により、学習習慣の定着と学力の向上が図られた。●小学校では町内の農家の方の話を聞いたり、収穫を手伝ったりするなどして、プロッコリーを活用したドーナツ「フタバフレンズ」を町の特産品にできないかと町役場に提案した。

川内村



川内村地域学校協働活動の成果と課題

内容

①むら探検や村の産業体験(米づくりや蕎麦打ち体験)を通して地域住民と触れ合い、新しい村の魅力を認識する。②村の事業所で職場体験活動を実施。仕事を通じて村と関わり、生徒たちは地域との繋がりを感じ、自ら地域に貢献する人材を育てる。③「かわうち興学塾」を活用し、児童一人ひとりが自己の学力、及び学習状況を把握し、今後の学習に活かすことで、学力・学習意欲の向上・家庭学習習慣の定着を図る。④放課後子ども教室では、地域人材や福島大学や玉川大学の交流支援により、勉強への意欲や社会性を重要視した学びや運動遊びを行っている。

ポイント

①村の「人・もの・文化」に触れながらふるさとの魅力を学ぶ「川内ふるさと学」を実施。②地域学校協働活動推進委員と地域連携担当教職員、事務局担当者の連携を密にする。③「放課後児童クラブ」と一体化した放課後子ども教室の運営を行う。

成果

●地域学校協働活動推進員の協力を得て、児童生徒と地域住民の交流の場が増えており、学校と地域の協力関係がより一層高まった。●健全育成プログラムを通じて、日々行う遊びから、子どもたちの創造性や感性、体力向上を目的とした活動ができた。●子どもたちにとって安心・安全で、居心地の良い居場所を作れた。●学習効果を把握するため、定期的なテストを行い、個々の指導の特徴を分析し、基礎学力アップを図るために合わせた個別指導を行った。

富岡町



コミュニティの拠点となる学校

内容

学校支援活動

- 授業や行事での支援「校外学習の連絡調整」「授業中の学習ボランティア」
- 学校外での支援「夏休みサマースクール」「防災無線町内放送」

学校を核とした交流活動

- 空き教室における公民館事業的な講座「エコクラフト」「音読教室」
- 校内でカフェを開き、地域住民や保護者、教職員が自由に交流「地域交流カフェ」

ポイント

- 学校からの要望等について、統括コーディネーターや推進員がパイプ役となり、地域の方々に協力を依頼し、学校を支援する。
- 月1回、校内でカフェを開催することで、地域住民等の縦横のつながりを広げ、人材のネットワークを拡充する。

成果

●地域と学校が関わる活動が、小学校70回以上、中学校50回以上と前年度を上回る実施となった。教職員のアンケートでも「校内に地域の方がいることで、地域人材の活用がしやすい」といった好意的な回答があった。

●地域交流カフェを8回実施し、延べ250人以上の方に参加いただき、地域住民や保護者、教職員の交流の場とすることができた。アンケートにおいても回答者の6割が地域交流カフェが交流の場として「非常に評価できる」という意見であった。

広野町



ひろの元気教室 (放課後子ども教室)

内容

広野小学校において、小学4年生から6年生を対象に火曜日～水曜日の授業終了後から15時55分まで体験活動、自由活動、スポーツ教室等を実施。

火曜日: 体験活動や自由活動等

(折り紙、切り絵、クラフト、ボードゲーム、バスケットボール等)

水曜日: スポーツ教室

(サッカー、バドミントン、なわとび、体力づくりトレーニング等)

ポイント

- 地域で文化芸術等の分野で活動している指導者を講師に迎えて、各分野での体験活動やスポーツ教室等を実施し地域の人材発掘と交流を実施した。
- 自主性の育成と安全確認のために、活動ノートの記入、終礼等を行ってからの下校とする。
- 月末に翌月のスケジュールを児童及び保護者に郵送し、体験活動のねらいと内容、準備物等を周知する。

成果

- 週1回程度スポーツ教室を取り入れることで、児童の運動不足解消と運動への苦手意識を減らすことができた。
- 学校の授業では学ばない地元の文化・専門分野などを、地域住民との体験活動をとおして学ぶことができ、地域への愛着や興味を深め、魅力の発見や交流につながった。

1学期～2学期: 「児童・保護者満足度90%以上にする」という目標を達成することができた。

聴覚支援学校平校保護者会



県立聴覚支援学校における放課後子ども教室の運営

内容

幼児児童が学習や軽運動、遊び等を共に行ったり、地域のサポーターの方々と交流を行ったりすることで、子どもたちへの活動の場を提供し、心身の健やかな発達を促すことを目的として活動を行っている。

- 活動は毎週月曜日～金曜日(13:30～16:30)

- コーディネーターが中心となり、宿題等を終えてから伝承遊び、ゲーム、自由遊び、身体を動かす活動など幼児児童の興味関心に応じたものを設定している。季節に応じた教室の飾り付けも一緒にを行い、幼児児童が通いたくなる教室づくりを心がけている。

ポイント

- 放課後に同世代の子どもたちと一緒に遊ぶ経験の少ない幼児児童にとって、言葉を育む良い経験となっている。
- 保護者送迎により遠方から通学している本校の幼児児童にとって、学校生活の終了後に同じ校舎内で活動できることは移動の負担が少なく、同じ学校の友達と安心した環境での活動につながっている。

成果

- 本事業は、利用ニーズが非常に高く令和6年4月～令和7年1月末現在で164日間実施し、のべ589人の聴覚障がいのある幼児児童が利用している。
- 聴覚に障がいがある幼児児童は、言葉の理解や活用において困難な面があるが、実体験をとおして言葉を自然に学ぶ機会となっており、言葉の力や他者と関わり合う力が促進されている。
- 令和6年度9名の在籍保護者全員が、本教室を必要としており、満足度は100%である。保護者の参画も見込まれ、次年度も存続を切望している。

大玉村



学習支援 おおたまっ子学び舎塾 子ども司書養成講座

内容

学習支援活動: おおたまっ子学び舎塾 大玉村子ども司書養成講座 (令和6年7月29日～7月31日)

対象: 村内小学校 5年生・6年生の希望者

内容: ～おはなし会にチャレンジ～ 学校司書について、図書館見学、読み聞かせについて、紙芝居の歴史、手遊びをやってみよう、しおり作り(工作)など

ポイント

- ①令和5年度から大玉村子ども司書養成講座を開設する。令和5年度は、司書の仕事について学んだ。講座終了後、子ども司書の活躍の場所が提供できなかつたことが反省点となった。
- ②令和6年度の受講者は11名(内、2年連続受講者3名)となる。テーマ～おはなし会にチャレンジ～という見通しをもつた講座の実施を行う。読書推進リーダーとなる児童の育成と、おはなし会に参加するという目標をもつことで継続した活動につなげる。

成果

- ①興味・関心を高めながら自己の目標をもって学ぶことができた。
- ②子ども司書として認定されたことで、地域や学校の読書活動を意欲的に行おうという気持ちが高まった。※受講者には、子ども司書認定証・缶バッジの授与を行う。
- ③おはなし会では、自分たちで作成したプログラムをもとに、役割を決めて進行、読み聞かせ、工作などを行った。おはなし会の中で自分の役割を遂行できしたことや、参加者に認められた経験が大きな自信となった。

二本松市



「放課後子ども教室推進事業」の取組

内容

現在、5教室を公民館または小学校空き教室を活用して実施している。

教室毎に対象とする学年を決め、月1回～3回程度、放課後やスクールバスの待ち時間を利用して様々な活動を展開している。

宿題補助や体育館での軽スポーツの他、季節のイベント(七夕飾り、お月見、秋祭り、クリスマス等)、避難訓練や工夫を凝らした炊き出し訓練、地域包括支援センターと協力した子ども向け認知症サポート養成講座の開催などそれぞれの教室でアイディアを絞り、継続する企画や新しい企画を開催した。

ポイント

スクールバスの待ち時間や放課後の限られた時間を有効に活用するため、事前準備や安全確認を徹底している。高学年になると活動メニューが重複したりマンネリ化したりするため、自身の活動のほか低学年へのサポートなど立場を変えた関わり方もできるようにしている。

成果

普段の学校活動と異なる環境での活動や、体験が他の学年の児童や地域の大人と接する貴重な機会となっており、相手への思いやり、家族や地域のお年寄りの方に寄り添う意識の向上、郷土愛の醸成や教育活動の充実などにつながった。この活動が核となり地域づくりの土台となっていることを再認識することができた。

内容

●地域学校協働活動推進員の協力を得て、児童生徒と地域住民の交流の場が増えており、学校と地域の協力関係がより一層高まった。●健全育成プログラムを通じて、日々行う遊びから、子どもたちの創造性や感性、体力向上を目的とした活動ができた。●子どもたちにとって安心・安全で、居心地の良い居場所を作れた。●学習効果を把握するため、定期的なテストを行い、個々の指導の特徴を分析し、基礎学力アップを図るために合わせた個別指導を行った。

本宮市

地域の子どもは地域で育てる
～子どもたちのためにできること～



内容

授業や学校生活、体験活動などを支援する
学校生活:（年度始め）1年生下校時の補助、登校後の朝の準備支援など
授業支援:体育科の水泳補助、家庭科の手縫い・ミシンの補助、図画工作科のくぎ打ち・のこぎりの補助など
その他:地域の文化を知るための活動（「安達太良太鼓」「本宮かるた」の体験）、「安達太良山登山」の引率補助など

ポイント

- 連絡調整役であるコーディネーターを中学校区ごとに配置し、各学校のニーズに応じた活動が円滑に進められるよう、支援体制の整備・強化を図っている。
- 年2回開催の地域教育協議会及び月1回開催のコーディネーター定例会による連携強化と、ボランティア協力者へのアンケート実施による成果と課題の検証を行っている。

成果

例年通り、生活科や総合的な学習の時間、技能教科の授業における依頼は多く、担任の先生からは「助かった」という声も多く聞かれた。
実施内容やボランティアの確保の都合により実施を見送った依頼もあったが、他校の実績を参考に、新規依頼を試みる学校があつたり、過去には実施したことのなかつた支援を行つたりと、多岐にわたる活動の依頼を受けることがで
きた。

依頼状況	依頼数	参加ボランティア数(延べ)
※4月～12月	61件	315人

天栄村

英語の村てんえい構想並びに
愛村心を育むふるさと教育・
地域づくりを目指す



内容

放課後子ども教室:低学年から高学年までが一緒に活動している。村文化祭に出品するための作品作りや昔遊び体験などを行い、運動部分では地域のスポーツ団体に協力を仰ぎ、子どもたちに体験することはもちろん、楽しむことや健康な体づくりに努めている。コーディネーターや活動指導員・安全管理員は子どもたちが安全に楽しむことや健康な体づくりに努めている。運営側は安全管理員同士やコーディネーター、保護者と常に連絡連携を密にし、指導方針や運営方法について定期的な面談を行い、人材の育成と質の向上に努めている。

英会話教室:英語を学ぶことはもちろん、楽しむことを最重要課題とし、苦手意識の克服のため、海外のイベント（ハロウィンやクリスマス）に併せ工夫を凝らした内容をALTや地元ボランティアに協力を仰ぎ展開している。

学校支援:コーディネーターが、学校からの要望に対し、地域人材の紹介や連絡調整を行い、学校活動に地域の人が参画する環境を整えている。

ふるさと学び教室:地元天栄村の魅力でもある歴史や文化、産業について学習することにより、郷土への関心をもち郷土愛を育む。なお史跡においては村文化財保護審議（地域の方々）の案内にて見学をしている。

ポイント

地域学校協働推進員が生涯学習課題内に席を置き、互いに連携しながら活動する環境が備わっており、適宜地域人材確保の相談等早期対応などの対策が図れるようになっている。また、学校には地域連携担当教職員を置くことで、地域と学校の連携・協働体制を築き、併せて英語という共通のツールを学校と地域が一貫して活用することで地域との一体感が生まれている。

成果

- 地域の特色を活かした様々な学校支援が、英語の村てんえいへの全世代での取り組みや、ふるさと教育の充実と教員の多忙化解消にも繋がっている。
- 自然と共に人・未来を創造する村てんえいの実現に向け、村の宝である「地域住民」「自然環境」「探究的な学習を行う教育現場」とが協働のもと持続的な取り組みを推進できている。

鏡石町

地域が学校を支援する
『学校応援団！』



内容

鏡石町立第一小学校、第二小学校、鏡石中学校、鏡石幼稚園の4機関からの支援要請に基づき、地域の保護者、スポーツ・文化に関する団体、老人クラブなど地域の登録ボランティアの方々が学校現場に赴き、支援を行っている。
活動事例:入学式・卒業式の受付などの運営支援、新入学児童の下校の引率、授業での裁縫・ミシンの使い方指導、みどりの時間での花植え付け補助、夏休み中の寺子屋等の学習支援、俳句教室など多岐にわたる。また、「ボランティアのつどい」を開催し研修やボランティアの交流を図っている。

ポイント

学校等からの支援要請に基づき、地域コーディネーターが学校と登録ボランティア支援員との調整を適宜行なながら事業を進めている。地域教育協議会を開催し、実施状況・課題について地域コーディネーター、地域連携担当教職員など、関係者同士での情報交換を行い学校と地域の意思の疎通を図っている。

成果

地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員）を配置し、支援要請に随時対応する事で地域が学校を支援する活動が定着化しており、学校からも期待が寄せられているほか、教職員の業務負担軽減にも貢献している。

年度	件数	回数	ボランティア数
令和4年	26件	51回	158人
令和5年	39件	65回	202人
令和6年	26件	54回	140人

小野町

放課後の子どもたちの
安全・安心な居場所づくり



内容

- スクールバスの利用児童の待機場所を兼ねながら、小学校の空き教室等で約100名の子どもたちが学習活動や文化活動等を行っている。
- 地域の方の協力による「笑いヨガ教室」等の多様な文化に触れる機会を設けている。
- 学校からスクールバス乗り場までの見守りも行っている。
- スタッフにおいては、各種研修会や救命救急講習会等の子どもたちを見守る上で必要な知識を身につける機会を設けている。

ポイント

- 町委嘱の6名及びシルバー人材センター派遣のスタッフ5～7名（登録者11名）で1日13名程度のサポートにより運営している。
- 当該スタッフについては、小学校との情報共有や緊急時にも対応できるよう救命救急講習会の開催、町保健師・保育士からのアドバイス等により、子どもたちとかかわる上での不安解消に繋げている。

成果

小学校での活動が定着したことにより学校と連携してスムーズに取り組むことができている。「笑いヨガ教室」など地域との交流の機会を設けることで子どもたちが当該活動を実施しながら、放課後ににおける安全・安心な居場所づくりを行なうことができた。

白河市

東中学校区における地域学校
協働活動事業について



内容

- 学校の年間計画により、地域コーディネーターが先生方の要望を伺い、関係する事業所や団体、地域住民等へのボランティア支援の要請や講師との連絡調整のほか、新たな教育活動に対する助言または指導など必要な支援を行う。
- 学校行事におけるボランティアの確保及び実施に向けた準備、活動補助、後片付け
 - 「職場体験活動」での事業所等の斡旋や連絡調整、また、校外で行うボランティア活動等における生徒の安全確保や交通指導
 - 外部講師や関係団体等と学校との連絡調整、地域住民への声掛け

ポイント

- 東中学校区は、「東中学校」「小野田小学校」「釜子小学校」の3校で構成され、各学校に1名のコーディネーターを配置することで、円滑な教育活動が図られた。
- 各学校の歴史や伝統、また、地域に根付いているイベントや農商工業の豊富な資源・人材等により、住民同士の繋がりも深く、子ども達にとって恵まれた環境となっている。

成果

- 各コーディネーターの幅広い人脈により、地域の方々とのパイプ役になっていたいただき、充実した教育活動が実施できた。
- 「読み聞かせ」「ミシン操作」「収穫体験」など、地域の適任者に関わっていただくことで、質の高い学びが提供されるとともに、子ども達は様々な地域住民との交流によって、新たな発見をしながら自己肯定感を高め、学習意欲の向上へつながっている。

石川町

地域学校協働本部事業の
成果と課題



内容

放課後子ども教室事業:地域の理解者や各種団体（読み聞かせの会、家庭教育インストラクター、長寿会等）の協力を得て、生け花、野菜づくり、野外観察、かるた大会、季節の工作など、毎回多種多様な体験メニューを提供し活動している。

学校支援事業:放課後の学習支援や地域行事等に参加したり、地域と子ども・保護者とのかかわりを大切にしたりすることで、地域と学校が一体となって子どもや保護者の不安の解消を図っている。

ポイント

- 学期毎に「子ども教室通信」を発行して、写真により活動の様子を保護者にお知らせしている。
- 子ども教室コーディネーターによるアイディア満載の多彩なメニューを提供し普段体験できない貴重な場所「学びの場・遊びの場・体験の場」となっている。
- 子どもを軸とした地域・子育て世代・学校等の連携により、地域社会全体で子育てや学校支援を行っている。

成果

放課後子ども教室事業:

- 野菜づくり（サツマイモ）は、農作業にかかわる機会が少ない子どもたちが、体験活動を行える貴重な場である。
- 段ボール工作は、子どもたちの自由な活動を大切にし、想像力・表現力の育成に繋がっている。
- 異学年交流の場である。④登録児童5名（1～3年対象）
- 学校支援事業:**地域全体で子どもを育てられる環境づくりへの協力体制や意識の向上が図れている。登録児童24名（1～6年）

西郷村

地域学校協働活動事業の取組



内容

学校支援:中学校区から選出されたコーディネーターが学校からの要望に応えて地域ボランティアとの連絡調整を行い、学校の環境整備や体験活動等の学習支援を行っている。

学習支援:「ステップフリー教室」は、放課後に小学校で実施する教室・長期休業中の教室、休日に文化センターで行う中学生の教室があり、塾講師などの地域の支援者が児童・生徒の基礎学力向上と学習意欲の喚起を目的として指導している。

放課後子ども教室:子どもたちが安全・安心に活動できる居場所づくりとして、水・金の放課後で3教室（今年度は1教室で休止）で実施している。地域の活動支援員とともに、学習やスポーツ・文化活動など多様な体験や異学年交流に取り組み、体験を通して心豊かで健やかな子どもたちの育成をめざしている。

ポイント

- 学校支援においては、年度当初に各学校に希望調査を行うとともに、地域連携担当教員と合同の運営委員会を実施して、支援内容の共通理解を図っている。②学習支援においては、塾講師などの地域の支援者を学校に派遣したり、休日に公共施設で実施したりすることで、学校における働き方改革にも貢献している。③放課後子ども教室では、異学年交流・季節のイベント・児童館との交流・夏休み合同イベント・本物に触れる体験（ボッチャ・ダッヂボール）など、充実した活動を実施してきた。

成果

- 地域コーディネーターと地域連携担当教員との打ち合わせにより、学校支援が充実してきた。④ステップフリー教室は、小学校・児童館345回（参加者実数544名）実施、長期休業8回（延べ参加者数156名）実施、中学生22回（延べ参加者数239名）実施し、学力の向上を目指すことができた。⑤放課後子ども教室は3教室で年間65回実施した。参加者数は77名、活動支援員21名であった。感染症対策を講じながら、活動内容を工夫して活動することができた。

矢吹町

大人も子どもも地域と共に
活動する町づくり



内容

- 地域学校協働本部会議年2回開催
- 地域学校協働推進会議年3回開催
- 学校教育ボランティア研修会年2回開催
- 矢吹町学校応援企業（職場見学・体験の実施・出前講座の実施・学校との連携活動）
- 地域学校協働本部だよりの発行
- 地域学校協働活動推進員意見交換会の開催

ポイント

地域学校協働活動推進員が学校の要望と学校教育ボランティアを結びつけることにより、「子どもが元気に！」「学校が元気に！」「地域が元気に！」を実現していく。

成果

すべての園・学校に地域学校協働活動推進員を配置することで、各所で、協働活動の機運が高まりを見せている。中でも、推進員と学校の体制が綿密に連携し、進んで取り組む学校もある。

また、年々ボランティアや地域の方の協力者が増え、各学習活動をスムーズに進めることや活動内容の充実化につながっている。



棚倉町



放課後子ども教室の成果と課題

内容

各教室の実施期間については、棚倉小12日間(上学期年6日、下学期年6日)、社川小10日間、高野小9日間、近津小9日間で、各小学校の体育館や多目的室等を会場として実施した。内容については、昔あそびや大正琴、太鼓体験などの文化伝承活動、キンボール、スカットボール、ポッチャなどのニュースポーツ、木工教室や花束をつくろうなどの地域の自然を活かした活動など、子どもたちが地域の方々と触れ合いながら、多様な経験をし、たくさんのことを学ぶことができる活動を実施した。

ポイント

- ①放課後児童クラブを利用している児童に関しては、参加希望者のみとしているが、高野小学校については、児童クラブ利用児童は全員参加となっている。
- ②子ども教室と児童クラブは、学校の施設内で活動しているため、児童クラブ指導員の引率の元、安全に移動することができ、両方のスタッフなどの連携・調整をスムーズに行うことができる。

成果

今年度の子ども教室参加人数は、棚倉小70名、社川小17名、高野小7名、近津小39名となっており、下学期から上学期まで幅広い年齢層が参加していることから、異学年間の児童の交流が見られた。また、ニュースポーツでは、自分たちで作戦を立てるなど、高学年が下学年に教えながら楽しく活動できており、いい刺激になったと感じる。アンケート結果を見ると、活動に対しての満足度が児童・保護者共に90%を超えており、保護者からは、「子ども教室の活動を通じて人の関わりや文化などを学ぶことができている」といった意見が挙がっており大変好評である。

矢祭町



学校への地域支援者派遣&ふるさと探検隊講座の成果と課題

内容

- 【ふるさと探検隊事業】**
 - 5月:開級式、ニュースポーツ交流体験
 - 6月:矢祭町の歴史講座
 - 7月:ラズベリー農園見学
 - 8月:夏休み森林教室
 - 9月:ぼうさい教室
 - 10月:水郡線の旅~那珂市~
 - 12月:ゆず味噌&こんにゃくづくり
 - 1月:閉級式・折り紙ヒコーキ教室

ポイント

探検隊の活動は町内在住の方々に講師、支援員を担当していただくほか、県南地域の高校生に活動ボランティアとして参加してもらい、子ども達との交流、活動をサポートいただいた。探検隊事業、学校学習支援とともに、活動を通して様々な立場の人と接する機会を設けることができている。

成果

- 【ふるさと探検隊事業】** 参加登録者:43名
実施回数:全8回講座(5月~12月) 年間の活動平均出席率:71%
今年度はラズベリー農園の見学や水郡線の旅、柚子みそこんにゃくづくりなど、郷土の農産業に係る学習と地域住民との交流について、充実させることができた。
- 【学習支援事業】** ボランティア登録者:54名 支援要請回数:27回
こども園:8回 小学校:16回 中学校:3回
昨年度より要請回数も増え、コーディネーターを通しての学習支援が充実していた。

塙町



放課後子ども教室事業の成果と課題

内容

5月から2月まで実施している。七夕やクリスマス会、豆まきなどの季節の行事、さつま芋の苗植えから収穫の体験、ポッチャやゲートボール体験など時季に合わせた活動を実施した。また、夏季休業中にはお寺体験や生涯スポーツ係の協力のもと、水辺の安全教室を行い、救命胴衣の着用やサップ体験を行った。町内の指導員に加え、町外より講師を招いて様々な活動を実施することで、多くの体験と交流をもつことができている。

ポイント

子どもたちの自主性・主体性を促すため、片付けや整理整頓を徹底している。迎えの際には、家族にも片付け方を確認してもらしながら帰りの支度と一緒に行ってもらう。また、家族には活動に参加してもらったり2ヶ月毎に子ども教室だよりを発行し、子どもたちの活動状況を知らせたりしている。

成果

- 学年毎の結びつきだけでなく、縦の関係も深めることができた。
- 家庭や学校では体験できない活動を通して子どもたちの興味・関心を引き出すことができた。
- 実施回数19回 登録人数33名
- 年間平均出席率70%

猪苗代町



放課後子ども教室事業の取組

内容

活動内容の様子や放課後子ども教室への申込みなどを掲載した通信を作成。学校を通して毎月1~2回程度各家庭に配布し、参加者を募っている。

対象は町内小学校の1年生から6年生で、様々な体験ができるよう、地域の方や専門知識のある方に支援員をお願いしている。

伝統工芸や昔遊び、ニュースポーツ、ダンス、英語教室、身近なものを使った様々な工作、季節の行事、読み聞かせ、けん玉などの体験活動を行っている。

ポイント

- 地域で「こんなことができるよ」という方を推進員が発掘し、児童の学びや発見、楽しい体験となる活動につなげている。
- 児童が初めて体験することや伝統文化を学ぶことなど、新しいことや古いことに興味をもってもらい、体験できる活動プログラムを組んでいる。
- アンケートによる評価・検証を行っている。

成果

- 小学校が統合し2校となったことで参加児童数の増などの課題があつたが、大人数だからこそできる内容、また、学年を区切ってその学年にあつた内容を検討しながら実施し、毎回子供たちの元気な声と笑顔を見ることができた。
- 地域の方々と交流することで子供たちも新しい発見をし、また地域からも「子供たちから元気をもらっている」などの意見をいただき、世代を超えて地域の方に教わりながらできる、有意義な活動となつた。

喜多方市



地域学校協働活動事業の成果

内容

部活動の支援

- 部活動支援員の派遣:第一中(陸上、ソフトテニス)、第二中(バスケットボール)、第三中(卓球、バスケットボール)、会北中(卓球)、塩川中(ソフトボール、陸上、ソフトテニス)、高郷中(卓球)
- 地域スポーツクラブ:野球、剣道、陸上、バスケットボール及び卓球の5団体

学習支援

- 各小中学校に学習支援員等を派遣

ポイント

- 部活動については、部活動支援員の派遣による支援を中心に行っています。
- 学習支援については、各学校の要望に応じて支援を行っています。

成果

- 前年度と比較し、担い手となる部活動支援員や地域スポーツクラブが徐々に増加しており、教職員の負担軽減に寄与しています。

項目	令和5年度	令和6年度
部活動支援派遣部活動数	5	10
地域スポーツクラブ数	2	5

鮫川村



地域学校協働活動の成果と課題

内容

特徴的な活動内容

- 郷土の伝統芸能体験活動の推進。学校と地域の人材が連携した体験活動の充実。
- 小中学校キャリア教育の推進。学校と地域が連携した体験活動の充実。
 - 小1…がっこだいすき 小6…鮫川の歴史と文化
 - 小2…だいすきさめがわ 中1…鮫川の伝統文化
 - 小3…鮫川の川・水・魚 中2…私の進路と職業
 - 小4…鮫川の森林・水・森 中3…福祉とボランティア
 - 小5…鮫川の食と環境

ポイント

実施にあたっての工夫:毎月会議を行うことにより、いつでも担当者とコーディネーターが連絡調整できる支援体制を整備している。

成果

- 子供たちの学びや体験活動が充実した。
- 地域の様々な人々との交流を通して、コミュニケーション能力及び学習への興味、関心が向上した。
- 教職員が子供と向き合う時間が増加し、きめ細やかな指導の充実につながった。
- 地域ぐるみでの子供たちの安心、安全の確保につながった。
- 地域の方々の学校への理解が深まり、地域に根ざした信頼される学校づくりに結実した。

西会津町



「地域学校協働活動事業」の成果

内容

- ①学校応援・地域交流事業:地域の協力により、登校時の安全指導や授業・部活への支援や地域との交流活動を行っている。
- ②放課後子ども教室事業:本の読み聞かせや季節・地域の特性を生かした活動を放課後や休日に行っている。
- ③学習支援事業:退職教員等の協力による放課後の学習会や漢字検定を開催し、学習の機会を創出している。
- ④家庭教育支援事業:小学校にある相談室で児童生徒や保護者からの相談対応のほか、親子イベント等を開催している。

ポイント

- 小中学校には、担当教員を配置し、学校の要望等に応じ、対応している。地元の人材を活用しながら、活動を推進している。
- 家庭教育支援では、相談の内容によっては、福祉介護課等関係機関につなげなど連携を図っている。

成果

- 令和6年度の実施状況等>(令和7年1月21日時点)
- 学校応援・地域交流事業:授業支援・補助(小学校対象):11回(ボランティアのべ13人) 放課後子ども教室事業:平日活動(原則、毎週水曜日):19回/休日活動(土日など):2回 学習支援事業:放課後学習会(中学生対象):11回(指導者数のべ49名)/漢字検定:2回(受検者数のべ21名)/英語検定対策学習会(中学生対象):6回(指導者数のべ9名) 家庭教育支援事業:相談室利用者:のべ605人(上半期)/親子フリーマーケット:1回(参加者5名)

会津坂下町



元気で楽しいばんげっ子(放課後子ども教室)

内容

- 教室数:2教室(ばんげ南っ子クラブ、ばんげ東っ子クラブ)
- 登録者数:ばんげ南っ子クラブ…56名
ばんげ東っ子クラブ…27名

活動日:ばんげ南っ子クラブ…毎週水・金曜日
ばんげ東っ子クラブ…毎週月・金曜日

活動内容:集団遊び、昔遊び、スポーツ、工作、植栽活動、年中(季節)行事、伝統行事、奉仕活動、地域活動、児童クラブとの交流活動等

運営委員会(評価検証委員会):年1回

ポイント

- 多世代との交流の中で豊かな人間関係を育んでいる。
- コーディネーター、活動支援員等が積極的にアイディアを出した活動や、地域人材を活かした活動を行うことで、地域の方のやりがいにつなげている。
- 運営委員会を通して児童クラブとの情報共有を図り、協働事業の検討を行っている。

成果

- 家庭や学校で行うことが少なくなった伝統行事や年中行事を体験することによって郷土を学び、地域の良さを知ることができた。
- 年間を通じた活動することで学年を超えた交流や大人との交流により世代間交流が図れた。

湯川村



学校・地域がいきいきとして笑顔・笑顔(地域学校協働活動)

内容

- 幼稚園では、草団子作りやお祭りの縁日体験を実施。
- 小学校では、農業体験、太鼓、囲碁、将棋、押し花、ミニ四駆、昔遊び、太極拳、ひょっこ踊り、グラウンドゴルフ、卓球、ボッチャ、吹き矢体験を実施。
- 中学校では、職業講話や農業体験、会津の郷土料理ごはん作りを実施。

ポイント

- コーディネーター等の団体への積極的な働きかけや「社会教育 darüber」を発行することにより、協働活動への意欲が高まり、前年度よりも協力者や支援団体が広がっている。

成果

- 子どもたちがいきいきと学んだり、活動したりする姿に、喜びとやりがいを感じる地域の方が増えている。
- 親子奉仕作業における除草作業への協力依頼が学校からコーディネーター等にあり、地域住民の方で学校に子どもや孫がいなくても協力するなど、協働活動に広がりが見られる。

柳津町

子どもたちの感性を育む教室(放課後子ども教室)



内容

- 2つの学区毎に実施:柳津小学校区「ジャンプやないづ」
西山小学校区「杉の子サークル」

- 地域の方や異年齢の子どもとの交流活動
- 令和6年度は子どもたちの感性を育むために、いつもとは違う日常の中にワクワクを盛り込んだプログラムを企画

ポイント

地域の方々等の協力により、参加児童と地域の方々との交流を積極的に行なう。

見て触れて「感じる」ことを大切に、ワクワクする不思議な体験を行うことで、地域の方々や異年齢の子どもたちとの年齢を超えた交流の機会を増やす。

成果

日常では体験することができない不思議な体験をとおして、地域の方々や異年齢の子どもたちとの年齢を超えた交流をする機会となっている。

2校の合同教室を実施することによって交流が盛んとなり今後中学校で一緒になる前の良い機会となっている。
のびのびと活動し、子どもたちの育ちを見ることができる。

金山町

「放課後子ども教室事業」の成果と課題



内容

- 金小ゆうがたクラブ: (金山小学校児童対象・中央公民館)
よこたふれあい教室: (横田小学校児童対象・横田公民館)

平日(月~金)、共働き等により家庭に保護者がいない児童を対象に放課後の見守りを行い、地域の活動日として、月1回程度イベントを行っている(ものづくり教室、将棋教室、料理教室、七夕飾り付け、団子さしだなど)。また、長期休業中も、地域住民を講師に迎えた体験教室を数回実施している。

ポイント

放課後子ども教室では、単なる見守りではなく学習支援と様々な体験活動に取り組むという流れで運営している。異学年の子どもが一緒に活動することで、下の子を思いやる気持ち、目上の人の敬う気持ちが養われている。

成果

特にイベントでは、児童それぞれが興味、能力に応じて活動を行っており、参加者が積極的に取り組む様子がうかがえる。

また、地域住民に講師等で参加してもらうことで、伝統行事等の体験活動をとおし、異世代間交流が行われ、子ども達の郷土愛、思いやりの心の育成に大きく寄与している。

	R2	R3	R4	R5	R6
金小参加者数	16名	15名	15名	16名	18名
よこた参加者数	9名	10名	7名	9名	8名

南会津町

放課後子ども教室事業の成果と課題



内容

地域資源を生かした自然体験や工作、クッキング、スポーツ等の多様な体験活動を展開している。
また、地域住民の協力を得て、農業体験や昔遊び等を行うことにより、子どもたちが地域社会の中で、健やかに育まれる環境づくりを行っている。
対象は1~6年生(小学校区により1~3年)で活動は週に1~2回程度。保護者や地域住民が指導員(有償ボランティア)として活動を行っている。

ポイント

年に3回、各教室のリーダー役となるコーディネーターを集めた「コーディネーター会議」を開催し、町内6教室の情報共有や悩みの解消などを行っている。
年中行事や季節のイベントを計画的に実施し、体験的な活動を取り入れることで、さまざまな文化等に触れる機会を確保している。

成果

- 地元の方々の協力を得て事業を行ったことにより、地域と子どもとの繋がりができた。
- 学校や家庭ではできないクッキングや工作、季節の行事などの体験活動、今まで知らなかつた遊びなどの新しい経験を通して、思いやりや協力する心が育まれ、社会性の向上につながっている。
- 他学年との交流により、学区内のコミュニティづくりにつながっている。
- 畠での活動は、自然についての学びや収穫の喜びを経験し、協力の大切さや地域の方々との繋がりを感じる体験となっており、郷土愛を育むきっかけとなっている。
- 令和6年度登録児童人数: 118名(令和7年1月29日現在)

会津美里町



地域と学校の架け橋を目指して

内容

- 4人の推進員を3つの地域学校協働本部(中学校区)の4つの小学校ぞれぞれに配置した。学校の要望に応え、地域の方々が支援に当たつてることを子どもたちに伝えながら細かな支援体制を整えた。
- ①学習支援:「農業学習支援」「ミシン指導補助」「柔道・ダンスの支援」「長期休業中の学習支援」②多様な支援:「こども園自然観察」の講師、「ペンクラブ文芸教室」への協力・部活動支援 ③放課後子ども教室: (4つの教室、年間25回程度、地元講師・自然の家や会津大学の講師)
- 昨年より姉妹都市の楢葉町の児童と2回交流活動(夏冬)を行い、海や雪での遊びといった豊かな体験を共有し、交流を通して郷土を学びながら震災防災の学びへもつながっている。

ポイント

- 4人の推進員が協働本部内の各学校と綿密に連携をとり、地元人材や活動ボランティアを活用しながら、児童生徒の郷土愛を深めていくよう事業を進めている。
- 毎月1回の推進員会で活動を総括し、また、救急対応や事業活動充実に向けた講義といった研修会を開き、スタッフ(推進員、支援員、サポート)の資質を高めている。

成果

- 地域の支援者が授業に加わることで個別の細やかな指導が可能となり、学習成果が高まることが教員の目標達成や安全面への安心感等にもつながっている。
- 児童、生徒に豊かな体験の機会を準備し、技術向上や探究心へ適切に対応しながら、子どもたちも地域の方々の支援に感謝の意をもてた。
- 支援者からも「やりがいがある。」の声が寄せられ、さらに指導や激励もいただいている。
- CSマイスターの講義により、スタッフの活動意識が深まった。

三島町

地域学校協働本部事業



内容

- 三島小学校: 総合学習の支援
●桐の学習、田んぼの学校、おばあちゃんの味(郷土料理体験)
●地区探検 地区の子どもを中心とした伝統行事体験・参加(虫送り、虫供養、鳥追い、ひな流し)等
- 三島中学校: 森林環境学習補助(桐の学習)等

ポイント

- 地域の方々と協働により事業を実施している。
- 児童生徒自らが目標を立て、その達成のために地域の方々から学んでいる。
- 当町の伝統行事の目的や継承の重要性について理解を深めている。

成果

- 先人達が歩んできた道のりを理解することにより、郷土愛をはぐくことができた。
- 自分の住んでいる地区だけでなく、他の地区への伝統行事に参加し、行事の意味や内容について理解することにより、伝統行事の継続が図られる。
- 事業の継続により、児童生徒が地域住民と顔見知りとなり、地域との一体感が生まれ、地域の活性化につながった。

下郷町

放課後子ども教室事業の成果と課題



内容

- コーディネーター(地域学校協働活動推進員)が、学校や関係団体等との連絡・企画調整を行い地域や学校の実情に応じながら、特色ある活動を展開している。学校休業日以外の平日に実施。

自主学習の支援、読書、スポーツや創作活動、自由遊びの支援等。

そのほか、月2回程度のプログラム実施日を設けている。

ポイント

- 各教室に保護者との連絡用の携帯電話を導入し、連絡体制を強化。
- 教育委員会、コーディネーター、学校とが連携して、事業を実施。
- 「放課後子ども教室だより」にて、スタッフや活動の様子を紹介。
- 毎年、登録児童・保護者を対象にアンケート調査を実施し、現状やニーズを把握。

成果

- 登録児童数は減少しているが、登録率は9割を超える。
- 参加人数は減少傾向にあるものの、地域団体や企業に協力を得て、多くのプログラムを実施した。

【茶道教室(茶道愛好会)、パークゴルフ大会(パークゴルフ協会)等】

年度	R6年度			R5年度				
	計	あ	え	な	計	あ	え	な
登録者数(人)	151	69	38	44	155	65	40	50
全児童数(人)	154	69	38	47	159	65	40	54
登録率(%)	98.1	100.0	100.0	93.6	97.5	100.0	100.0	92.6

あ…あさひだっ子クラブ エ…えがわっ子クラブ ナ…ならはらっ子クラブ

只見町



ESDと関連させた地域学校協働活動



檜葉町

まちや関係機関と連携した支援体制の構築



国見町

家庭教育支援の成果と課題



内 容

恒常的な支援体制の構築

- 子育て支援センター内にて毎週火曜日に支援員が相談業務を実施
- こども園の運営に、発達や心理の専門的な知見を活かした支援を展開
- 月に2度程度、スクールカウンセラーによる巡回相談指導を実施
- 発達や心理、特別支援教育などに関する保護者向けの講座を年に4回実施
- 離乳食教室やベビーママ教室への継続的な参加
- 町の保健師が主催する教室等に参加し、保護者と継続的なつながりを図る
- 子育てをテーマとした、保護者間でつながる機会や学習の機会を設定
- 親子交流イベントをこども園と共に実施、保護者向けの講話に参加
- 家庭教育に関する支援側の知識の定着
- 支援員が子育てや家庭教育に関する研修会等へ参加

ポイント

- 保護者の出入りが多い子育て支援センターに拠点を移すことで、多くの保護者に活動を認知してもらうことができる。また、こども園とつながることで保護者とつながる機会が増えた。
- 昨年度に引き続きスクールカウンセラーを町の単費で活動してもらい、連携を深めることで、心理学に基づいた専門的な支援を家庭の状況に基づいて、個々に実施できる体制を構築した。

成 果

- 支援員と保護者が関わる機会を増やしたことにより認知度が高まり、こども園児以外の利用者や地域の方の利用にもつながった。
- 毎週実施している相談業務の利用者数は、多い月で40名を超えた。リピーターの方もあり、ほぼ毎週利用者がいる状況を創り出すことができた。これによって利用者と支援者との信頼関係が生まれた。

子育て世代の方のニーズや課題を把握し、それらの充足・解決に取り組むため、2歳児までの子どもをもつ保護者を対象にした「子育てリフレッシュ教室」を開催。地域の方に支援をいただき、保護者が安心して子育てができるよう取り組んでいる。

須賀川市

「須賀川市家庭教育学級事業」の成果と課題



内 容

- 「家庭教育支援員等研修会」を年4回開催し、専門家等による講演等を通して、家庭教育支援員の資質の向上を図った。
- 就学時健康診断を利用した「子育て講座」(小学校入学児童の保護者等対象)及び、新入生保護者説明会を利用した「思春期子育て講座(中学校入学生の保護者等対象)」では、家庭教育支援員がグループ協議でのコーディネーターを務めた。

成 果

- 講座では、保護者同士の交流を図るためにグループ協議による形態で開催した。
- 3年ごとに開催している「家庭教育支援員養成研修会」を受講した者が、「須賀川市家庭教育支援員」として登録され、現在33名が在籍している。

令和6年度「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰について

この表彰は、地域とともに学校づくり、学校を核とした地域づくりを進め、未来を担う子供たちの成長を地域全体で支える社会の実現を目指すことを目的に、学校と地域が連携・協働し、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に実施する取組のうち、その内容が他の模範と認められるものに対し、その功績をたたえ文部科学大臣が行う表彰です。

福島県からは、2団体表彰されました。

檜葉町

- ◆ 檜葉町立あおぞらこども園
- ◆ 檜葉町立檜葉小学校
- ◆ 檜葉町立檜葉中学校／
檜葉町地域学校協働センター

田村市

- ◆ 田村市立常葉幼稚園
- ◆ 田村市立常葉小学校
- ◆ 田村市立常葉中学校／
田村市地域学校協働本部

問い合わせ

福島県教育庁 社会教育課

TEL.024-521-7799 / FAX.024-521-7974

メールアドレス k.syakaikyouiku@pref.fukushima.lg.jp



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。